

各 位

会 社 名 株式会社アルファクス・フード・システム
 代 表 者 名 代表取締役社長 田 村 隆 盛
 (コード番号：3814 東証 J A S D A Q)
 問 合 せ 先 上席執行役員管理部長 菊 本 健 司
 電 話 番 号 0 8 3 6 - 3 9 - 5 1 5 1

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2018年11月26日付「業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました2019年9月期の第2四半期業績予想につきまして、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 業績予想の修正について

2019年9月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(2018年10月1日~2019年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,270	128	118	79	32.07
今回修正予想 (B)	861	22	15	9	3.65
増減額 (B-A)	△409	△106	△103	△70	
増減率 (%)	△32.2	△82.8	△87.3	△88.6	
(ご参考)前期第2四半期実績 (2018年9月期第2四半期)	954	45	37	23	9.42

2. 修正の理由

2019年2月13日に開示いたしました、2019年9月期第1四半期決算における前年比減収を背景として、当第2四半期においてもその影響により、次のような要因で業績予想の修正となりました。

ASPサービス事業における月額サービスの主な減収要因は、今年で4年目となる粗利の低いシステム機器販売からソフトウェア販売へのシフト方針による、ハードウェア保守の解約によるものです。ハードウェア比率が下がることにより、今後はハードウェア保守に関わる直接/間接経費もそれ以上に減少するため、減収による影響は一時的なものとなる見通しです。

本来、この減収部分をカバーするべきソフトウェアサービス収入は、「飲食店経営管理システム(R)」、「自動発注システム」を中心に着実に増加しているものの、第1四半期においての前期第4四半期受注に伴う、軽減税率対象のシステム立ち上げにおける作業負担の増加、補助金申請手続きの事務作業の遅れによる、サービス開始ズレなどが影響した結果、減収要因となりました。

ASPサービス事業カテゴリーのうち、システム機器事業につきましては、第1四半期において、季節要因を考慮した前期並みの既存顧客の出店を想定しておりましたが、外食産業は深刻な人手不足もあり、ここ数年間でもっとも出店が少なかったため、大幅な減収要因となりました。

次に、エネルギーコスト削減事業については、第1、第2四半期ともに数件、受注案件の一部の計上を計画し、それに伴う人員確保等を実施しておりましたが、既設配管変更設計やその後の工事が絡む事業であるため、売上計上基準がこれまでのソフトウェアパッケージ、システム機器とは異なることとなり、第2四半期においても売上未計上が続いており、収益に大きく影響しておりますが、第4四半期には計上できる見込みであります。基本的に当事業のほとんどが、お客様が望んだ場合、4月~5月に公募されるCO₂削減等の補助金対象であるため、補助金決定後、着工/竣工が8月~10月に集中することになり、第4四半期に集中する結果となることが予測されています。

こうしたことで、2019年9月期第2四半期時点において、システム機器、エネルギーコスト削減事業につきましては、当初の計画との実差が大きくなっております。

なお、2019年9月期通期業績予想数値につきましては、特にエネルギーコスト削減事業の今期受注/売上計上予定が、第4四半期に集中することが確定しており、主力の「飲食店経営管理システム(R)」、「自動発注システム」の引き合いも順調で、今期3月単月の収支においては過去最高の1億円以上の粗利となっており、収益力が増しているため、前回発表の通期業績予想は据え置きさせていただきます。

なお、今回の業績修正に伴う、配当予想の修正はありません。

※上記予想は、現時点で得られた情報に基づいて算出しております。実際の業績は状況の変化などにより記載の予想とは異なる場合があります。

以 上